

異物対策強化、厳しい対応も

関東木材資源
リサイクル協会

各地域でも意見交換など



藤枝慎治会長

関東木材資源リサイクル協会(東京・中央、藤枝慎治会長)は9月13日に理事会を開き、藤枝会長は、「チップの出荷が厳しい状況は続いている。適合チップ認定制度を開始したが、異物混入対策についてさらなる努力、注意喚起が必要な状況だ。本制度はお飾りにすべきではなく、より厳しい対応も検討していく」と話した。

トラブル報告では実際に発生した異物混入などを説明、可動式のしきりやヤードのセパレート、磁選機、金属検知器の設置などの改善策、提言なども述べられた。藤枝会長は「事業者の設備や使用している機械によって注意点なども異なる。柔軟



異物対策について議論

に考え、対策を立てなければならぬ」と話した。

関東での各地域協会として北関東、中関東、南関東の地区委員会からの報告があり、木質チップの出荷について厳しい地区が多いことや、異物混入対策について意見交換が行われている。特に北関東では、

合わせ方や、異物の発見の際の目視チェックのポイント、展開検査の頻度ややり方、情報共有やフィードバックなど詳細な議論が行われたことが報告された。

また事務局からは今夏行われた木材サミット2018の状況についてや、9月5日に行われた福島県いわき市の視察について、会員企業が中心となり大学との共同研究を進めることなども報告された。